尊厳をもってその人らしく生きていく社会を目指して

デイケアニュース vol.10

- message：近藤 国嗣 JADC 会長
- information：JADC の全国大会・研修会等のスケジュール変更に関して
- report：通所・訪問リハビリテーションの目的を踏まえた在り方に関する調査研究事業
- up date：在宅リハビリテーションエキスパート・ジェネラリストコース 詳細
- meet our friend：いるかの家リハビリテーションセンター

一般社団法人 全国デイ・ケア協会

2020 年度を迎えて。

JADC 会長
東京湾岸リハビリテーション病院 院長 近藤 国嗣

令和２年度が始まりました。皆様におかれましては、日頃より当会の活動にご理解・ご協力をいただきありがとうございます。昨年度末から COVIT-19 の猛威により、大変な情勢となっていることに、深く心を痛めております。感染によりお亡くなりになられた方におかれましては、心よりお悔やみ申し上げます。

さて、少し時を遡りますが、平成 30 年度は診療報酬・介護報酬のダブル改定が行われました。通所リハビリテーションにおいては、リハビリテーションマネジメントの細分化、医師の関与の明確化、サービス提供時間の見直しや「VISIT」の導入開始、介護予防におけるリハビリテーションマネジメント加算、生活行為向上リハビリテーション実施加算の新設が行われました。これまで以上に「活動」「参加」への積極的なアプローチが求められる改定から２年の歳月が流れ、令和３年度の介護報酬改定へ向けて新たなスタートを踏み出す所存です。

当会では昨年度、厚生労働省老人保健健康増進等国庫補助金事業として「通所・訪問リハビリテーションの目的を踏まえた在り方に関する調査研究事業」を行いました。本調査は平成 30 年度介護報酬改定における影響と実態を把握し、課題を明確にするものです。本調査結果からは、リハビリテーションマネジメント加算Ⅱ以上を算定された利用者は、生活能力がより向上することが示されました。詳細な結果につきましては、報告書及び実践マニュアルを当会ホームページに掲載しています。ぜひご一読ください。

令和２年度は、平成 30 年度改定の調査を踏まえたうえで、通所系サービスの今後の在り方を示していける１年にしたいと考えております。

その一環として、これまでの研修会の内容をリニューアルいたします。その中でも一番新たな取り組みとして、「在宅リハビリテーションエキスパート・ジェネラリストコース」を新設いたしました。これは、多様な知識・技術が求められる在宅リハビリテーションにおいて、自職種の知識のみに捕らわれず、あらゆるケースに対しオールラウンダーに対応可能な在宅リハビリテーションマスターを育成し、生活期（在宅）リハビリテーションの質の向上につながる講義を企画したものです。その他の研修会も内容をブラッシュアップさせ、現場で働く皆様のお役に立てる様々な研修を企画しております。

当会主催の研究大会として、令和２年度の全国デイ・ケア研究大会は７月 10 日（金）～ 11 日（土）に倉敷（倉敷市芸文館）にて開催を予定していましたが、昨今の情勢を踏まえ次年度に延期する運びとなりました。皆様の安全と健康を第一に考えた結果となるため、ご理解いただきたく存じます。また、本大会に向けて準備を進められた皆様におかれましては、是非とも次年度の研究大会にてご発表いただけますと幸いです。

末筆ではございますが、令和３年度介護報酬改定に向けて、会員の皆様には様々なご意見を頂戴しながら協会運営をしてまいる所存です。皆様のご理解とご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

JADC の全国大会・研修会等のスケジュール変更等に関して

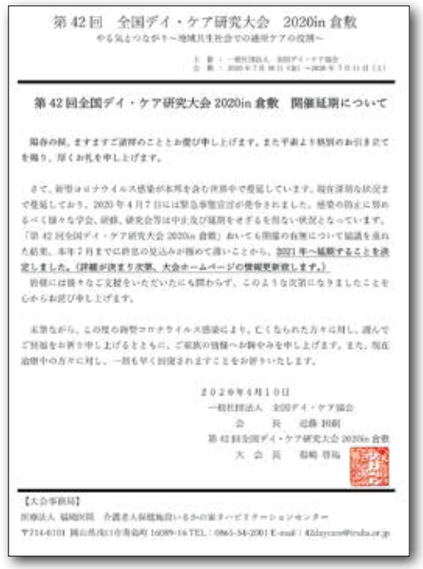
世界規模で猛威をふるっている新型コロナウイルス感染への対応から、各方面で様々な影響が出ています。当会における種種の企画・イベントへの影響も大きく、日々刻々と変わる状況の中、延期や中止といった苦渋の選択をせざるを得ない状況となっています。各研修会等への参加を希望なさっていた方々におかれましては、当会ホームページに極力最短で情報をアップデートしておりますので、都度ご確認のほどよろしくお願い申し上げます。

■ “第 42 回全国デイ・ケア研究大会 2020 in 倉敷”、2021 年に延期。

４月 10 日、着々と準備を進めてまいりました「第 42 回全国デイ・ケア研究大会 2020 in 倉敷」の開催の有無について協議を重ねた結果、本年７月までに終息の見込みが極めて薄いことから、2021 年へ延期することを決定しました。

皆様には様々なご支援をいただいたにも関わらず、このような次第になりましたことを心からお詫び申し上げます。

詳細が決まり次第、大会ホームページの情報を更新いたします。


第 42 回　全国デイ・ケア研究大会　2020in 倉敷

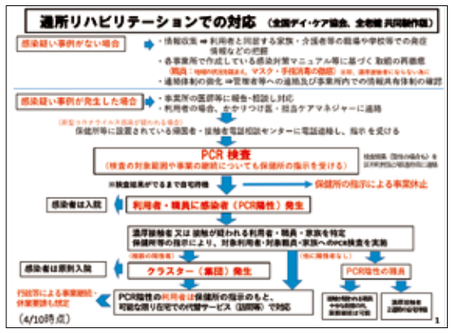
第 42 回全国デイ・ケア研究大会 2020in 倉敷　開催延期について

■“リハビリテーション･ケア合同研究大会 大阪2020”は中止に。

11 月に大阪で開催予定であったリハビリテーション･ケア合同研究大会 大阪 2020 も、主催６団体による協議の結果、中止となりました。この決定が苦渋の決断であったこと、開催に向けて支援を賜った方々や参加を心待ちにしていた方々に対してお詫びとともに「現状を打破した後に、安心・安全な環境で来年度に予定されている神戸大会に皆様が集結されることを望んでおります」と神戸大会成功へのメッセージが公式中止書類に綴られていました。

■ 新型コロナウイルスにおける対応フロー。

新型コロナウイルスは未だ未知の部分が多くありその対応は手探りな状態の部分も多々あります。その一助となるべく、JADC では全国老人保健施設協会と共同し、新型コロナウイルスにおける対応フローを作成しました。ホームページよりダウンロードすることができます。ぜひご活用ください。



令和元年度老人保健事業推進費等補助金 老人保健健康増進等事業

「通所・訪問リハビリテーションの目的を踏まえた在り方に関する調査研究事業」報告

JADC では昨年度、令和元年度老人保健事業推進費等補助金 老人保健健康増進等事業「通所・訪問リハビリテーションの目的を踏まえた在り方に関する調査研究事業」を実施しました。全国の通所リハビリテーション事業所・訪問リハビリテーション事業所・居宅介護支援事業所を対象としており、皆様のお手元にも調査票が届いたかもしれません。本事業の結果は令和３年度介護報酬改定の検討材料となるでしょう。大変貴重なデータを収集することができました。ご協力いただいた皆様には心よりお礼申し上げます。

さて、平成 30 年度介護報酬改定において、活動や参加への働きかけをより効果的・効率的に実践するリハビリテーションの提供に向けて、通所・訪問リハビリテーションにおいて、医療介護の連携促進、リハビリテーションマネジメント、要支援への関わりの３点が見直されました。本事業では、リハビリテーションマネジメントの効果的な運用方法、医師における役割・関わりの工夫、要支援者に対する効果的な関わり、医療介護の連携状況等を明らかにし、事業所の効果的・効率的な運用方法を検証することを目的といたしました。

本事業の対象は全国の通所リハビリテーション事業所（2,500 件）、訪問リハビリテーション事業所（1,300 件）、居宅介護支援事業所（500 件）を無作為抽出にて選定し、調査方法はアンケート調査を郵送回収法にて実施しました。調査票は事業所票、利用者票（新規利用者・利用修了者）の２部構成にて作成され、回答から先進的に取り組まれている事業所に対し、ヒアリング調査を実施しました。

本事業は通所・訪問リハビリテーションそれぞれにて結果を示していますが、今回は通所リハビリテーションに関して、その一部をご提示します。

リハビリテーションマネジメントの効果

リハビリテーションマネジメント加算の届出状況は、加算Ⅰが 87%、Ⅱが 26%、Ⅲが 38％、Ⅳが 8% でした（複数回答あり）。調査の結果では、新規利用者において、リハマネ加算ⅡⅢⅣの算定利用者は IADL（Frenchay Activities Index）や生活範囲 (Life-Space Assessment) が向上する割合が高くなりました（図１・２）。また、利用開始時の ADL（Barthel Index）60 点以上の利用者におけるリハマネ加算ⅡⅢⅣの算定利用者は、ADL の向上割合が有意に高い結果となりました（図３）。このように、リハマネ加算ⅡⅢⅣにおける充実した情報収集に基づく課題分析、リハビリテーション会議等による目標設定の明確化と共有は、利用者の生活能力の向上に寄与していると推測することができます。

■６ヶ月後の活動状況の変化（リハマネジメント加算別）

図１. IADL

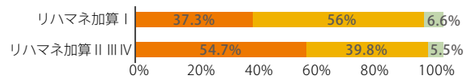


図２. LSA

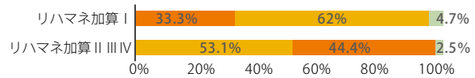
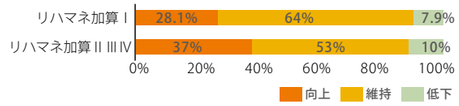


図３. ADL（利用開始時 BI 60 点以上）



要支援への関わり

平成 30 年度より要支援のリハビリテーションマネジメント加算が新設され、届出事業所は約７割以上でした（図４）。多くの事業所がリハマネ加算を算定していることがわかります。また、リハマネ加算を届出している事業所は、事業所評価加算の算定割合が高く、介護度の維持改善に効果を示していました（図５）。

図４. リハマネジメント加算の届出状況

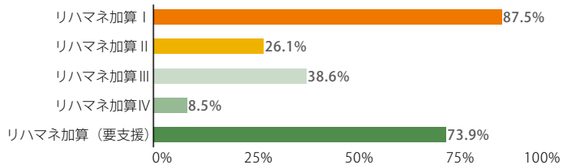
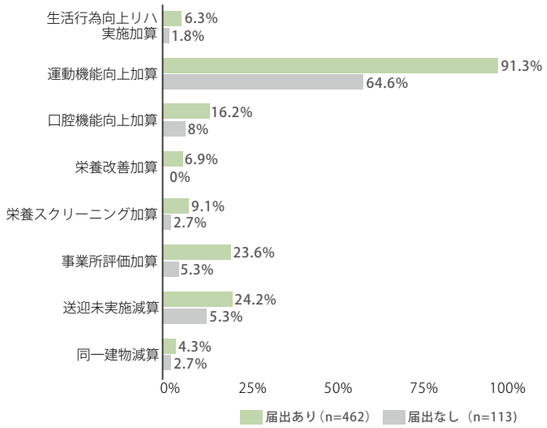


図５. 要支援における各種加算の届出割合
（リハマネジメント加算〈要支援〉の届出有無別）



大規模事業所の役割

大規模事業所は、多く職員を通所リハ事業所へ配置していました。特に、看護師・介護福祉士の配置人数が多く配置されており、充実した職員配置に基づき、医療的ケアやリハマネ加算ⅡⅢⅣ算定に積極的であり、６ヶ月間の利用による IADL や LSA の向上割合も高知を示していました（図６・７）。

また、生活機能向上連携加算へ協力している事業所割合は 12%であり、大規模事業所にて割合が高くなりました（図８）。地域との交流活動の実施状況は、連絡会議の開催・協力、勉強会･事例検討会の開催･協力の割合が約４割でした。その中でも大規模Ⅱでは、地域の通いの場の支援、町内会活動への参加、通所事業の受託等の割合が比較的多く実施されていました（図 10）。しかしそのように地域との交流を多く持っていても、生活機能向上連携加算の協力にはつながっていないケースが多くあることがわかります。今後さらに地域間における連携が望まれることでしょう。

図６. 規模別における IADL 変化

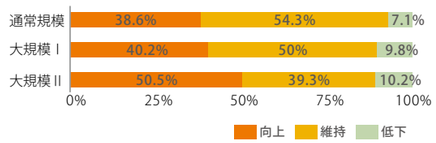


図７. 規模別における LSA 変化

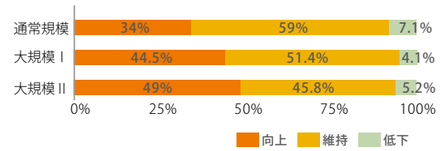
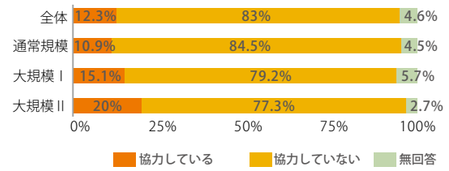


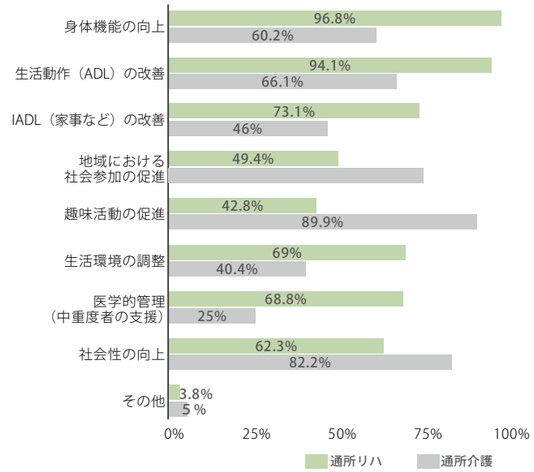
図８. 生活機能向上連携加算への協力状況



通所リハと通所介護の役割

ケアマネジャーへの調査結果から、ケアマネジャーが通所系サービスに期待する役割として、通所リハは機能・能力の向上、生活環境の調整、医学的管理の割合が、通所介護は趣味活動、地域における社会参加、社会性向上の割合が高くでました（図９）。利用者の状態像に合わせた適切なリハビリテーションサービスの提供が行えるよう、ケアマネジャーを中心に地域における連携を深め、協働を推進していくことが重要となります。

図９. 通所系サービスに期待する役割



今回は紙面の都合上、ここまでの記載となりましたが、詳細は当会ホームページにて調査報告書および実践マニュアルの閲覧が可能となっています。ぜひご覧ください。また、実践マニュアルに関しては、公開している内容からさらに濃厚なものへブラッシュアップさせ、今年度末から来年度にかけて書籍化する予定です。リハビリテーションマネジメントの効果が示された以上、効果的・効率的に運用する方法を身に着けることは、今後必須になっていくでしょう。本マニュアルが皆様のお役に立てることを幸に願うばかりです。出版まで乞うご期待ください。

↑ 調査報告書と実践マニュアルは、コチラから。

新しい研修会のお知らせ

いよいよはじまる EG コース EXPERT GENERALIST COURSE

09 号でお伝えし話題となっている新しい研修会、「在宅リハビリテーション エキスパート・ジェネラリスト コース（在宅リハ EG コース）」がいよいよスタートします。その詳細をアップデートしてご紹介いたします。

EG コースとは

2020 年度より、「**在宅リハビリテーション エキスパート・ジェネラリスト コース（在宅リハ EG コース）**」を新設します。多様な知識･技術が求められる在宅 リハビリテーションにおいて、自職種の知識のみに捕らわれず、あらゆるケースに対し オールラウンダーに対応可能な在宅リハビリテーションマスターを育成し、生活期（在宅）リハビリテーションの質の向上に寄与することを目的としています。

プログラムは、在宅リハビリテーションに関する総論から幅広い分野の各論を網羅するため、各分野の専門家に講師としてご登壇いただき、講師とのディスカッションや グループワークを通じて見識を深める内容となっています。

※『エキスパートジェネラリスト』とはビル･ゲイツも提唱し以下の効果があるといわれている。
1）特定の分野やコミュニティに偏るバイアスの影響を受けにくいことから、より正確な予測、判断ができる。
2）ある分野で上手くいった事例を別の分野に横展開で生かすことで、画期的なアイディアを生み出せる。
3）エキスパート･ゼネラリストが異なる分野の人たちのコネクターとなって繋ぐことで、よりオープンなネットワークを築ける。

講義テーマ	講師	所属
在宅リハビリテーション総論	近藤 国嗣	JADC 会長
在宅リハに必要な診療報酬・介護報酬のポイント	近藤 国嗣	JADC 会長
内部疾患の在宅リハビリテーション	海老原 覚	東邦大学 教授
在宅における神経・筋疾患患者に対する必要な知識とその対応	原 元彦	帝京大学医学部付属溝口病院 教授
フレイル・サルコペニアに対する評価と支援	山田 実	筑波大学 教授
がん患者の在宅リハビリテーション	辻 哲也	慶應義塾大学病院 准教授
認知症の理解とその対応	田中 志子	医療法人大誠会 内田病院 理事長
発達障害児小児に対する必要な知識とその対応	和田 勇治	東京都立小児総合医療センター
精神疾患を有する者に対する必要な知識とその対応	未 定	
在宅リハに求められる必要な評価と解釈	澤潟 昌樹	在宅総合ケアセンター元浅草 副施設長
在宅に必要なフィジカルアセスメントの知識とリスク管理の方法 と実際	宮越 浩一	医療法人鉄蕉会 亀田総合病院 リハビリテー ション科 部長
在宅リハに必要な摂食・嚥下機能の評価と応用	戸原 玄	東京医科歯科大学 准教授
在宅リハに必要な栄養学とその対応	近藤 国嗣	JADC 会長
排泄学 排尿・排便の仕組みと在宅における支援	西村かおる	NPO 法人日本コンチネンス協会 会長
在宅における ADL の評価とその対応　排泄・移乗・入浴	坂田 祥子	東京湾岸リハビリテーション病院 リハビリテー ション部 副部長
在宅リハ支援に必要な住環境整備の理解と実践	小林 毅	一般社団法人 日本作業療法士協会 理事
在宅リハビリテーションにおける転倒予防	大高 洋平	藤田医科大学 教授
在宅リハビリテーションに必要な脳卒中患者の歩行再建と装具療 法	近藤 国嗣	JADC 会長
ケアマネジメントの理解と自立支援	能本 守康	一般社団法人 日本介護支援専門員協会 常任理事
活動参加に効果的に働きけかける生活行為向上マネジメント	土井 勝幸	JADC 副会長
かかりつけ医の役割と連携における工夫	石垣 泰則	コーラルクリニック院長 一般社団法人日本在宅医療連合学会 代表理事副会長
通所リハビリテーションの果たすべき役割と他事業所連携	岡野 英樹	JADC 理事
通所介護の果たすべき役割と他事業所連携	小室 貴之	株式会社楓の風 代表
訪問リハビリテーションの果たすべき役割と他事業所連携	宮田 昌司	一般社団法人 日本訪問リハビリテーション協会 会長
訪問看護の果たすべき役割と他事業所連携	高砂 裕子	全国訪問看護事業者協会 常務理事
在宅生活者に対する施設リハビリ（老健）の果たすべき役割と他 事業所連携	野尻 晋一	JADC 理事
総合事業（介護予防・日常生活支援総合事業）の基礎知識と関わり	長江 翔平	厚生労働省 老健局 老人保健課 課長補佐
在宅リハにおける失語症者の支援と対応	山本 徹	医療法人社団永生会 法人本部 リハビリ統括管理部
在宅生活を送る高次脳機能障がい者の支援	橋本 圭司	はしもとクリニック経堂 院長
就労支援に必要な制度の理解と効果的な実践例	平田 好文	医療法人堀尾会 熊本託麻台リハビリテーション 病院 理事長
在宅リハ支援の中で人生の最終段階における 意思決定支援に必要 な知識とその対応	佐原まち子	一般社団法人 WITH 医療福祉実践研究所代表理事
在宅リハにおける倫理的配慮と事故対応	鈴木 雄介	鈴木法律事務所（医師 / 弁護士）
在宅支援に求められるコミュニケーションスキル	取出 涼子	医療法人社団輝生会 教育研修局 部長
在宅リハビリテーションにおける情報管理	染谷 和久	かすみケアグループ　情報戦略室　室長
事業所運営と事業戦略の考え方と業務改善による生産性向上への 取り組み方	岡野 英樹	JADC 理事

【研修日程】

2020 年 5 月開講 各回 3 日間 計 4 クール

第 1 クール　8 月 28 ～ 30 日（5 月開催から変更）
第 2 クール　10 月 9 ～ 11 日
第 3 クール　12 月 4 ～ 6 日
第 4 クール　3 月 12 ～ 14 日

【研修会場】

全国デイ・ケア協会事務局
東京都千代田区神田紺屋町 14 番地 千代田寿ビル 3 階

【研修費用】

¥120,000（昼食代別）

【対 象】

全国デイ・ケア協会会員施設のスタッフで、以下の条件に当てはまる方。

◆ 施設長の推薦を得られる専門職での経験 8 年以上の方。
◆ 医師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・看護師・介護福祉士･社会福祉士･ 精神保健福祉士･管理栄養士･歯科衛生士 のいずれかであること。
◆ すべてのプログラムにご参加できる方。

【定 員】

30 名

【認定証発行の流れ】

❶ 受講申し込み
⇩
❷ 受講確定（確定メールをお送りいたします）
⇩
❸ 第 1 クール受講（8 月 28 ～ 30 日）
⇩
第 2 クール受講（10 月 9 ～ 11 日）
⇩
第 3 クール受講（12 月 4 ～ 6 日）
⇩
第 4 クール受講（3 月 12 ～ 14 日）
⇩
❹ 認定試験（第 4 クール最終日に実施）
⇩
❺ 合格後認定証発行・送付

【← 研修情報と申し込みはコチラ】

注目 Attention

『明日から使える！　初めての通所リハ実践研修会』

ここ数年、新しく通所リハビリテーションを開設し現場の責任者として働くことになったリハビリテーション専門職から、「通所リハビリテーションの書類、どのように管理されていますか？」、と質問されることが増えてきました。また地域の通所リハビリテーションに従事している皆さんと話をしていると、「加算項目が根拠を持って算定できているかが不安です」、「送迎ってどのように組んでいますか？ どの職種が乗っていますか？」、「利用前の面談や体験利用調整はどのようにしていますか？」、「リハビリテーション計画書期限はどのように記載していますか？」、「利用契約時の説明やサービス担当者会議はどの職種が参加していますか？」などなど、他の施設がどのように取り組まれているのか知りたい、という話題が尽きません。このように通所リハビリテーションでの勤務経験や介護保険分野での経験が少ないと、リハビリテーション計画書更新のタイミングや必要な医療情報、退院日の書類確認など、介護保険分野で確認する書類の多さや算定の根拠に戸惑うことも多いと思います。

そこで今年度より、皆さんからの疑問に答えるべく、「明日から使える！ 初めての通所リハ実践研修会 ～制度の理解と書類の流れを中心に：入門編～」を企画・開催致します。この研修会では通所リハビリテーションで必要な書類の管理、送迎や契約の方法など、他の通所リハビリテーション施設では日々の業務をどのように管理・実践しているのか、会員施設から具体例や経験例、失敗例やノウハウとともに報告をしてもらいます。加えて総論として通所リハビリテーションに求められる役割や期待も学べるよう研修プログラムを組みました。通所リハビリテーション従事経験の多少に関わらずこの研修会を受講すれば、通所リハビリテーションの総論から日々運営する上でのノウハウも学ぶことができ、日々の疑問や今後の自事業所での取り組みにおいて参考にすることが多い内容となっています。さらに今回の研修参加をきっかけとして、JADC が主催する様々な研修会（リハビリテーションマネジメント研修会や状態・疾患別プログラム研修会など）を受講することもおすすめです。
本来、本研修会は第 42 回全国デイ・ケア研究大会 2020 in 倉敷の前日に開催される予定でしたが、大会の延期に伴い研修会は中止とさせていただきました。本研修会は令和３年１月に東京にて開催を予定しているため、ぜひ多くの方にご参加いただきたく思います。

抱いた想いを自事業所へ持ち帰り一つひとつ実現していく、今回の研修会が皆さんにとってその第一歩にしていただければ幸いです。

JADC 研修認定委員会委員
八尾はぁとふる病院　通所リハビリテーション 藤本 健

JADC EVENT SCHEDULE

JADCが誇る各種研修会、今年度は規模を縮小せざるを得ない状況ではありますが、クォリティはグレードアップしています。ぜひご参加ください。

【← 研修情報と申し込みはコチラ】

開催日		研修会	開催地
8月	28日（金）～30日（日）	在宅リハビリテーションエキスパート・ジェネラリストコース（EGコース）①	東京
9月	11日（金）～12日（土）	生活行為向上リハビリテーション研修会 in 福岡	福岡
10月	3日（土）	リハマネジメント研修会 in 東京	東京
	4日（日）	状態・疾患別プログラム研修会 in 東京	
	9（金）～11日（日）	在宅リハビリテーションエキスパート・ジェネラリストコース（EGコース）②	
12月	4日（金）～6（日）	在宅リハビリテーションエキスパート・ジェネラリストコース（EGコース）③	東京
	19日（土）	リハマネジメント研修会 in 福岡	福岡
	20日（日）	状態・疾患別プログラム研修会 in 福岡 NEW	
1月	23日（土）	明日から使える！初め NEW 通所リハ実践研修会	東京
	24日（日）	経営戦略研修会 in 東京	
2月	19（土）～20（日）	生活行為向上リハビリテーション研修会 in 東京	東京
3月	12（金）～14（日）	在宅リハビリテーションエキスパート・ジェネラリストコース（EGコース）④	東京
	19（金）	介護報酬改定セミナー	
	20日（土）	第８回デイ・ケアスキルアップセミナー（東京）	

（5月6日現在）

三団体合同研修会

JADCでは毎年、日本訪問リハビリテーション協会、日本介護支援専門員協会と三団体の共催にて研修会を開催しています。今回は第５回を迎えました。例年、各団体からの講義やディスカッションを通し、それぞれの視点を踏まえた濃厚な研修会が企画されています。今年度は初めて１月18日（東京）・19日（福岡）の連日開催を行いました。各団体の会員をはじめ、非会員も多くの方が参加されました。さて、今回のテーマは「効果的に自立支援する評価と在宅リハビリテーションの選び方・選ばれるために」でした。JADC近藤会長の熱いメッセージから始まり、通所リハ・訪問リハの視点から選ぶポイント、介護支援専門員の視点から選ばれるポイントの報告がありました。また、講義内容を踏まえつつ、様々な職種によるグループワークが行われました。選ばれる事業所になるにはどう変わらなければならないのか、各グループとも活発な意見交換がなされており、大変な盛況の中幕を閉じました。三団体合同研修会は今年度も開催を予定しています。各団体の報告を一度に聞くことができる貴重な機会ですので、ぜひとも多くの方の受講をお待ちしております。

活動×参加

毎号、全国各地から様々なイベントに参加した方々の声をお届けしている“活動と参加してみた”。今回は２名のご登場です。自身で受けた刺激を自身の施設でフィードバックに期待しています。

活動と参加してみた！ @ 通所リハビリテーション計画立案・実践研修会 in 大阪

他職種がお互いの専門性を理解し合い、情報を共有していくことで。

今回、通所リハビリテーション計画立案・実践研修会に参加させていただきました。その中で印象に残ったことは、「他職種との連携・協働」です。私は、回復期病棟での経験もありますが、他職種や外部の方との関わりは通所リハビリテーションほど、多くはありませんでした。しかし、今回の研修会に参加させていただき、他職種がお互いの専門性を理解し合い、情報を共有していくことで、適切なアセスメントや目標を設定することができるということを教わりました。

通所リハビリテーション計画書の作成においては、セラピストの視点だけではなく他職種からの視点も踏まえること、居宅サービス計画書と通所リハビリテーション計画書に乖離がないこと、その人らしい個別性を重視した計画書の内容であること、生活動作や活動などにおいて明確な目標設定ができていることなどが重要であるということを再確認できました。

今回、研修会に参加させていただいたことで、適切なアセスメントを行うことやニーズに基づいた目標を設定することが曖昧になっていた部分など、自身の臨床についての反省点や課題を抽出することができました。またグループワークでいろんな事業所の業務内容などを聴取することができたので、今後この経験を活かし、自身の業務効率向上や当院通所リハビリテーションスタッフへ反映させていこうと考えます。ありがとうございました。

八尾はぁとふる病院
理学療法士 小林 雄斗

活動と参加してみた！ @ 三団体合同研修会 in 東京

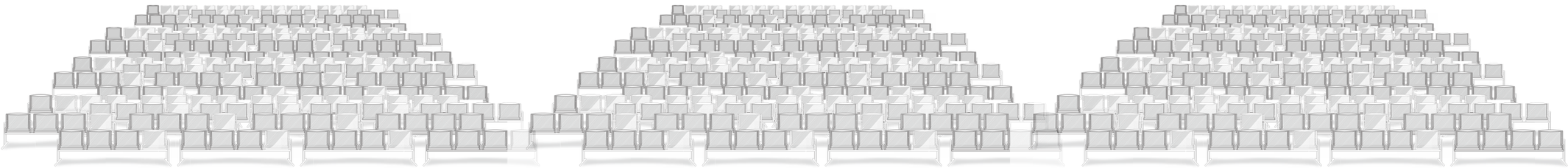
各職種の大事としている点を共有することこそ。

今回のテーマは「効果的に自立支援する評価と在宅リハビリテーションの選び方・選ばれるために」ということで、JADC近藤会長より昨今の制度改定のお話から、データに基づいた実践的なリハビリテーションについてご講義いただき、効果的な在宅リハビリテーションとは何なのか考える機会となりました。また、各団体より選ぶため・選ばれるためにどのような取り組みをしているのか、具体的な実践報告をいただき、それぞれの立場から考えられる重要なポイントを理解することができました。その後、多職種によるグループワークも開催され、大変活発な意見交換が行われており、各職種の大事としている点を共有することこそ、三団体が合同で開催する研修会の意義ではないか、と感じました。

私は通所リハビリテーションに勤務しているので、リハビリテーション会議等を通して他職種と意見交換をする機会はありますが、利用者個人ではなく、事業所としてどのような取り組みが必要なのか、また求められているのか、を議論することはあまりありませんでした。地域の中で最適なサービスを提供するにあたって、各事業所の意識改革が重要であり、このような機会をさらに設けることで利用者へ還元できると実感しました。

このたびは大変貴重な機会を得ることができました。第６回同研修会にも期待しています。

東京湾岸リハビリテーション病院併設
谷津居宅サービスセンター
作業療法士 佐々木 海人



会員施設 自己紹介

meet our friend

医療法人 福嶋医院
介護老人保健施設
いるかの家リハビリテーションセンター

利用者様の生活スタイルに合わせた通所リハビリテーションの提供。

当施設は岡山県浅口市寄島町という瀬戸内海に面した人口 5,500 人の漁師町で、「**皆に優しく、共に楽しく**」を基本理念に、お年寄りから子供たちまで暮らす人々全員が互いに優しく、心の底から楽しく生きられるよう「**ノーマライゼーションの町づくり**」を目指しています。そのため、利用者様が自宅で自立した生活を送ることはもちろんのこと、地域の中で自分らしく活き活きと過ごしていただくために活動しています。

当施設の特徴としては、利用者様の生活スタイルに合わせたリハビリテーションの提供です。月曜日から土曜日まで、祝祭日お盆や正月も休まず営業しています。提供時間も１時間～２時間未満のご利用時間から６時間～７時間未満の時間帯まですべて対応しています。

また、介護予防の方へのリハビリテーションにも力を入れており、**住み慣れた地域での生活を長く**続けていただくために、利用に制限を設けず関わらせていただいております。

医師を中心としたリハビリテーション会議を、ご家族や関係各職種の皆様と連携し行うことで、リハビリテーションや生活目標の達成度や課題・悩みを共有し、**利用者様の地域での生活をサポートする体制作り**の強化を図っています。

リハビリテーションはマシンを利用したトレーニングや理学療法士による個別の身体機能強化、歩行などの基本動作能力の強化はもちろんのこと、作業療法士によるより**生活の場に近い環境での訓練も重視**しています。その外にも集団でのリハビリ体操なども積極的に実施しています。

地域のつながりが強く、顔見知りの関係がしっかり残り、相互扶助の意識の強い地域特性がある小さな町で、その人らしい生活スタイルを地域のみなさんと共に歩んでいけるリハビリテーションの提供をこれからも続けていきます。

住所：〒714-0101 岡山県浅口市寄島町 16089-16
電話：0865-54-2001 FAX：0865-54-2701
URL：http://iruka.or.jp/office/reha/

事務局便り

One Piece for All
All for One Piece

“介護サービスの質の向上に向けた業務改善の手引き”が改訂されました。

これまでもお伝えしてきました「**介護サービスの質の向上に向けた業務改善の手引き**」がさらに内容が充実して改訂され、厚生労働省のホームページにアップされました。JADC ではこの事業に協力し、先のリハビリテーション・ケア合同研究大会（金沢）において、シンポジウムも開催し好評を博しました。この手引きには様々な角度、ポイントから業務の生産性向上を目指すためのアプローチ、ソリューションが事例として掲載されています。今回の改訂では新たに開発された見える化ツール、課題把握ツール、e- ラーニングツールなどが掲載されています。業務改善を実際に進める上で大いに参考になり、ぜひ一読することをお勧めいたします。

【↑ 改訂版の表紙と厚生労働省の掲載ホームページのQRコード】

研修会日程および今後の対策。Web 配信も視野に入れて検討中です。

information でもお伝えしているとおり、JADC が企画運営する研修会の日程が、新型コロナウイルス感染拡大における非常事態宣言発令等の影響により変更を余儀なくされております。今後も予測がつかない状況で、現段階で予定されている研修会も延期、中止の可能性があります。JADC のホームページにて最新の情報を最短でアップデートしてまいりますので、細かいホームページのご確認をなにとぞよろしくお願いいたします。

今般の新型コロナウイルス感染拡大防止のための対策の一つとして、研修会の web 配信について検討しています。参加される皆様の利便性も考慮した研修会のあり方を今後お示しできるよう準備しますので、決まり次第お知らせいたします。

■ メールアドレス登録のお願い。

会員の皆様におかれましては、日頃より本会の活動にご理解・ご協力賜り心よりお礼申し上げます。さて、研修会やその他周知事項を円滑に事務局よりご連絡させていただくために、会員の皆様にご連絡先メールアドレスのご登録をお願いしたく存じ上げます。

まだメールアドレスを本会にご登録いただいていない会員様、また登録されているか不明な会員様は、下記メールアドレスまたは本会ホームページお問い合わせフォームより、下記事項をご記入の上ご連絡いただけますと幸いです。なお、ご登録いただけるメールアドレスは複数可能です。
皆様へ円滑に情報をお届けするために、何卒よろしくお願いいたします。

アドレス：info@day-care.jp
記載事項：
【必須】会員番号
　　法人名
　　事業所名
　　ご連絡先担当者名（役職）
　　ご連絡先メールアドレス
【任意】ご連絡先別メールアドレス
　　（現場担当者等何件でも可）

■ デイケアニュース専用ページを開設しました。

デイケアニュースは平成 28 年より発行を重ね、今号にて 10 回目となりました。これもひとえに、会員の皆様のお力添えをいただいたおかげです。本誌はこれまで、様々な情報を掲載してきた中で、回を重ねるごとにより濃厚な内容となるように日々精進しております。

さて、このたび本会のホームページでは、本誌専用ページを開設いたしました。過去に発行された号から最新号まで、自由に閲覧することができます。

ぜひ、下記 URL または QR コードよりアクセスいただけますと幸いです。

URL：https://day-care.jp/dc-news

一般社団法人 全国デイ・ケア協会

介護、デイ・ケアサービスの追求

当会の前身である、全国老人デイ・ケア連絡協議会は 1994（平成6）年、全国のデイ・ケアを提供する施設の有志が集まり、情報の共有化・職員の研修・研鑽の機会提供を目的とし開設、20 年にわたり活動を続けて参りました。

近年、通所系サービスの役割は急速に高まり、介護予防・認知症疾患・重介護者等、様々な対象者層へのリハ・ケアの提供が求められるようになってきました。

制度的には多くの課題を抱える中、運営の適正化と質の向上、関係機関との連携、住民への啓発等をより公的な立場で取り組んで参ります。地域包括ケアシステムの構築が推進される中、病気や障害のある人たちが尊厳をもってその人らしく生きていくことの出来る社会を目指し、通所系サービスの組織としてその活動に取り組んでいく次第です。

協会認定制度のご案内

当協会では、研修体制の整備とともに認定のあり方について検討を重ね、平成 25 年度より協会認定制度を開始いたしました。通所系サービス (通所介護・通所リハビリ等) の質の向上、利用者の自立支援、地域住民の自助・互助活動への支援を行い、地域リハビリテーションの普及・啓発を促すことを目的に、管理者及び事業所を対象とした協会認定制度を創設いたしました。

認定管理者とは、「通所系サービスの中心的な役割を担う者として、必要な専門知識・経験・技術を有することを認められた者」としました。

認定事業所とは、「事業所として満たすべき基準をはじめ、取り組みや特色・方針が認められた施設」としました。

一般社団法人　全国デイ・ケア協会　事務局
住所：〒 101-0035 東京都千代田区神田紺屋町 14 番地千代田寿ビル３階
TEL：03（5207）2710　FAX：03（5207）2711
E-mail：info@day-care.jp

編集後記

世界で猛威を振るう新型コロナウイルスは、日本へも大きな影響を及ぼしています。会員の皆様におかれましても、日々の業務において今まで以上に緊張感の高い中での感染症対応と、それに伴う業務変更を余儀なくされる大変なご苦労の中、デイケアを必要としている利用者のため、運営を継続されている所かと思います。

今号におきましては、研修会の予定変更や研究大会の延期もありまして、予定と異なる内容となっております。感染症に関する情報を含め、新たな情報に関しましてはホームページ等で随時お伝えしていく予定ですのでご確認のほどお願い致します。また皆様へはこの感染症の猛威が終息した後、あらためて皆様と出会える場面を検討しております。
大変な状況ではありますが、この状況を乗り越えるためにも、日々のお体には十分ご注意しお過ごし頂けることを願います。

多良 淳二（JADC 理事）
介護老人保健施設イマジン リハビリ科 係長

http://www.day-care.jp

デイケアニュース 10号　2020年5月発行　編集／発行　一般社団法人 全国デイ・ケア協会 広報委員会